

令和2年度 学校自己評価のまとめ

回収総数15名（職員6名 こども環境科6名 介護環境科3名）

4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切

1 教育理念・目標

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目標育成人材像（専門分野の特性の明確化）	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	2	0	0	3.3	
職業教育の特色の明確化	職	5	1	0	0	3.8	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	2	0	0	3.3	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	職	3	2	1	0	3.3	2.9
	こ	1	1	4	0	2.5	
	介	0	2	1	0	2.7	
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向付け	職	4	1	1	0	3.5	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、各項目とも前年度を下回ったものはない。

○5項目の中で「将来構想についての共通認識」と、「保護者や学生への周知」の評価が低く、課題となっている。充実に向けた取組が必要である。

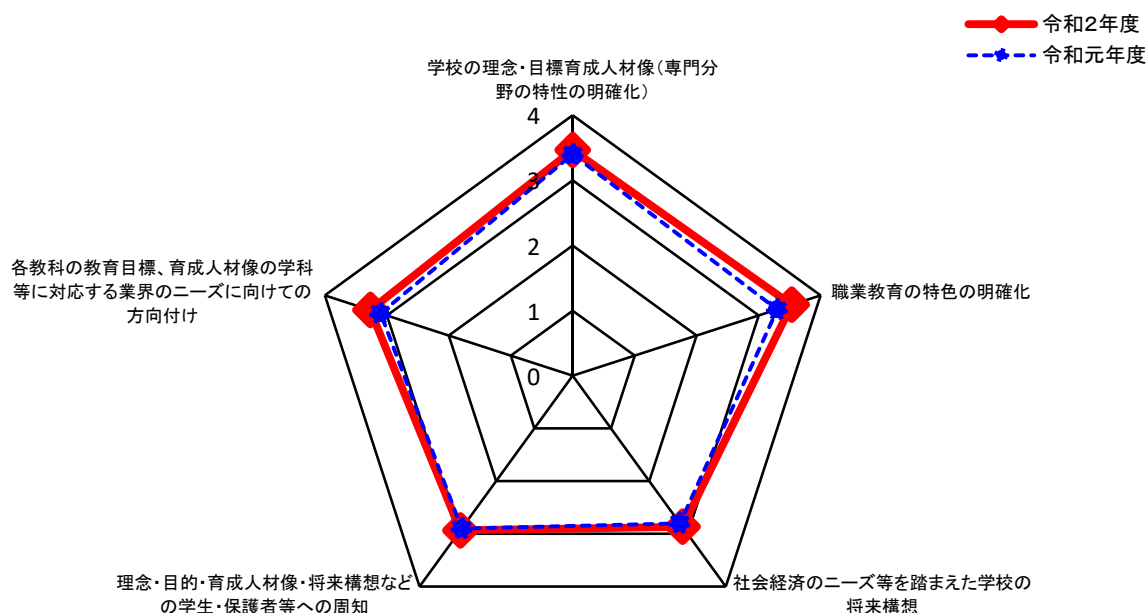
・評価によって表出した課題と改善策

◎新型コロナウイルス感染拡大防止から、入学式（保護者の参列中止）での保護者説明会（教育理念・目標の周知等）を行うことができず、各種資料の送付で対応した。来年度は従来の進め方ができそうなので、入学生へのオリエンテーションの充実等も含め一層の周知を図りたい。

◎職員全体で将来構想について話し合う機会（放談会のような軽いもの。お茶でも飲みながら）を何回か持たたい。その中から…

◎将来構想について理事長から説明を受け、それをもとに学生・保護者等に周知する。

◎教育目標、育成人材像等、教育の方向性については、随時、検討する場を持ち、確認していくことが必要ではと感じています。



2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針の策定	職	3	3	0	0	3.5	3.2
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	1	1	0	3.0	3.1
運営方針に沿った事業計画の策定	職	3	3	0	0	3.5	3.0
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	0	2	1	0	2.7	2.9
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	0	5	1	0	2.8	2.6
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	2.4
人事・給与の規定の整備	職	1	4	1	0	3.0	2.5
	こ	0	1	5	0	2.2	
	介	0	1	2	0	2.3	2.7
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	1	5	0	0	3.2	2.8
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	2.8
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	職	3	2	1	0	3.3	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	2.9
教育活動等における情報公開	職	4	2	0	0	3.7	3.4
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.2
情報システム化等による業務の効率化	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	2.5

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっている。6つの項目で前年度を上回っており、下がったのは1つの項目だった。

○人事・給与の規定の整備が必要である。

○組織運営・意思決定機能の明確化・有効な機能をティール運営によりいかに向上させるかが大きな課題。

・評価によって表出した課題と改善策

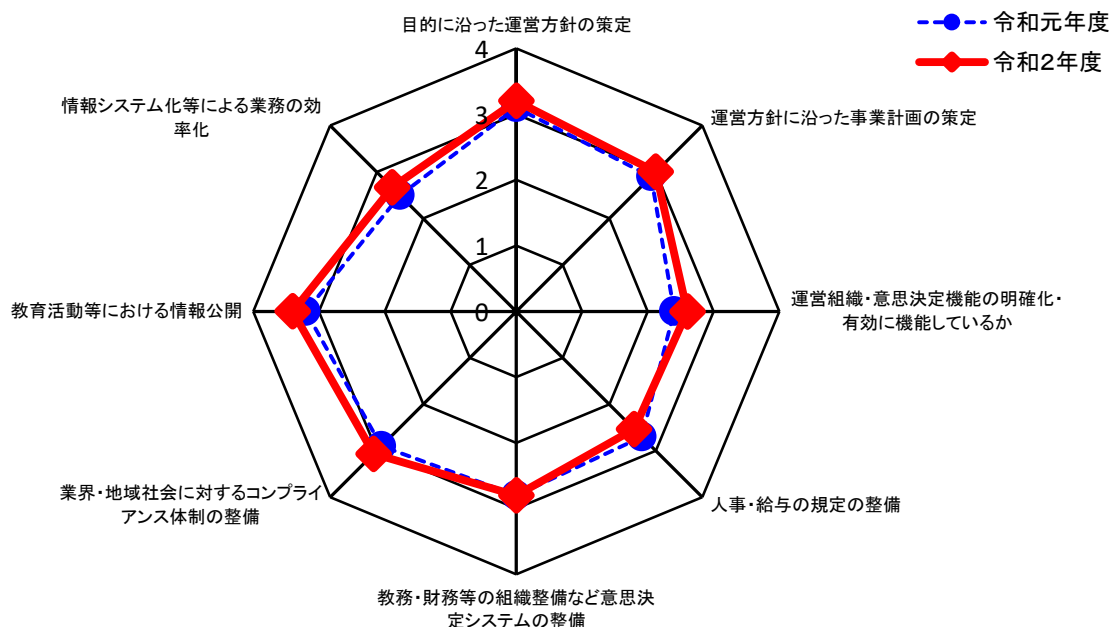
◎ティール運営の取組3年目となる来年度は、校内研修の充実等を通して相互理解を図りながら課題解決に向かっていきたい。

◎学校の人材育成機能が地域社会に理解されていない気がする。

◎ティール組織を実践中だが、意思決定が担当任せになることがあり、職員会議がうまく機能していない。（職員会議の有効利用）

◎年度の反省や学校の自己評価がそれぞれからあげられたまま全体での協議や共通確認の機会が十分ではなく、改善につながっていない。

◎上記の業界等のニーズに向けて、学生を育成するために必要な体制を現状で可能なシステムを個々のアイデアを出していき、前向きに改善策を考えて、効率化も図っていかれたらどうかと考えます。



3 教育活動

(1) 教育課程

		4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	2	0	0	3.3	
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	1	1	0	3.0	
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	1	5	0	0	3.2	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	1	1	0	3.0	
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	3	3	0	0	3.5	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	2	0	0	3.3	
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	

網掛けは前年度平均

○3つの項目が前年度を上回っており、下がったのは1つの項目だった。総平均値は、0.1ポイント上がっている。(過去3年の中でもっとも良い評価だった)

○カリキュラムや教育方法の工夫・開発の評価が低く、非常勤も含めた共通理解・取組が求められる。

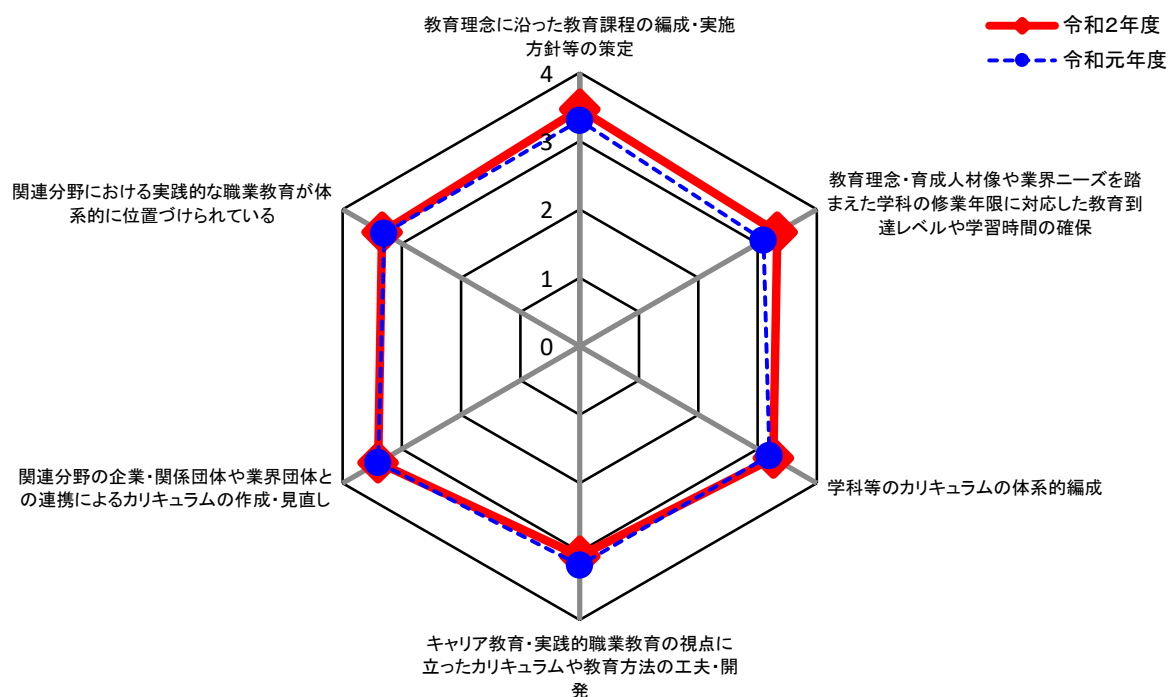
○次年度は、介護環境科が新教育課程となるため、改訂の意図をいかに反映させ進めていくかが課題である。

・評価によって表出した課題と改善策

◎企業等との連携を視野に入れたカリキュラム・シラバスは整備されており、学習時間も確保されている。学生にとってより分かりやすい内容となるよう、今後も検討を重ねていきたい。

◎カリキュラムに沿った内容を少人数の指導陣でよく展開していると思われる。それぞれの教育方法の工夫等も適切である。

◎現状に即した(学生、社会情勢など)工夫により、さらなる改善が図られるのではないかと考えます。教職員、個々が、学生を主体に関連分野との連携、教育方法等を工夫、開発していく余地、可能性はあるのではないかと思います。



(2) 指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	1	2	0	0	3.3	3.4
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	4	2	0	0	3.7	3.4
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.3
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	2	3	1	0	3.2	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	0	0	3.3	2.7
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	1	0	3.0	3.3

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、各項目とも前年度を下回ったものはない。(過去3年間の中でもっとも良い評価だった)

○評価・単位認定、進級・卒業認定に係る諸事項に対する評価は向上したが、より明確に・分かりやすくするための共通理解の場(研修等)の設定が求められている。また、進級・卒業に対する学生の意識づけをどう進めていくかにも取り組む必要がある。

○授業(指導)改善に結びつく公開授業及び学生による授業評価の継続するとともに、その充実に取り組む必要がある。

・評価によって表出した課題と改善策

◎コロナ禍のなかで講師会議を開催することはできず資料の配布にとどまったが、専任講師全員の公開授業及び学生による授業評価を継続実施することができたことは良かったと思う。

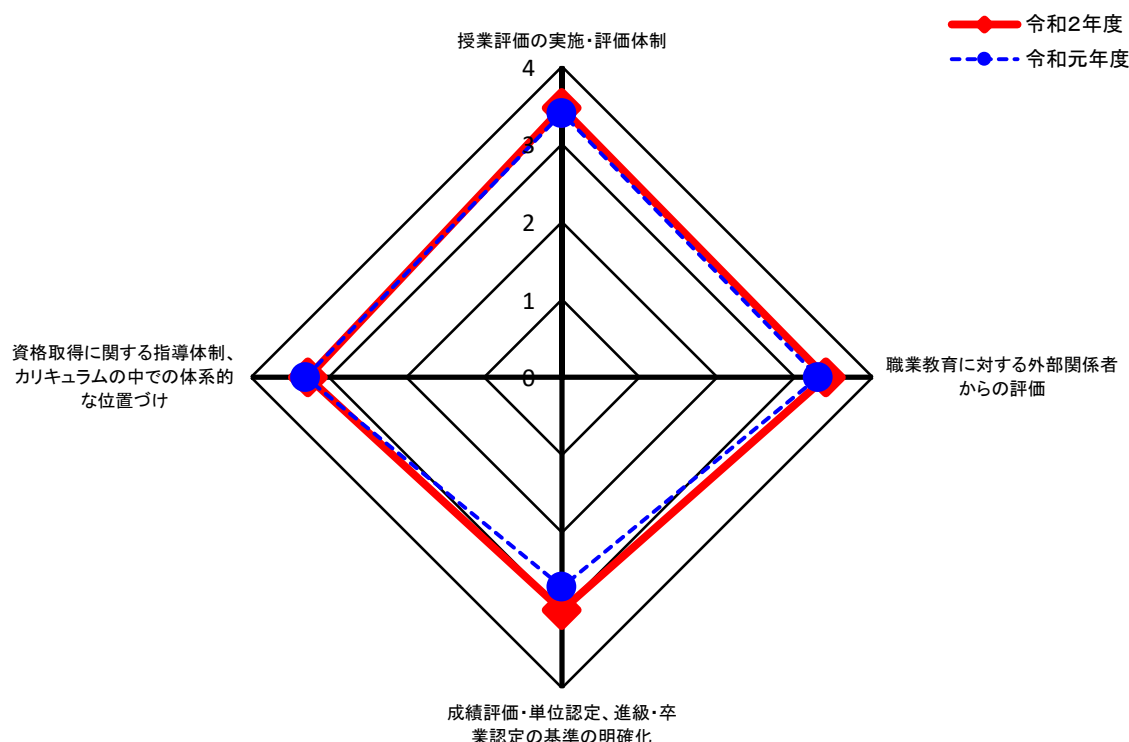
非常勤講師から公開授業及び授業参観に参加したい旨の声も上がっていることから、取組をより広げていくよう進めていきたい。

成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化については、校内研修の充実を図る中で取り組んでいきたい。

◎評価、単位認定について、まず学生側の進路意識の高揚からすすめていく事が肝要と考える。(普段のコミュニケーションから)

◎卒業・進級判定のより具体的な基準づくりを検討する必要がある。

◎個別対応が必要な学生がいる中で、指導体制や評価基準について全体での方向性の確認が必要と感じる。



(3)教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	1	0	2	0	2.7	
関連分野の業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	3	2	1	0	3.3	2.9
	こ	1	1	4	0	2.5	
	介	1	1	1	0	3.0	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	2	3	1	0	3.2	2.9
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	1	2	0	0	3.3	
職員の能力開発のための研修等の実施	職	1	3	2	0	2.8	2.6
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	0	1	2	0	2.3	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント下がっており、3つの項目で前年度を下回っている。

○教員確保(フルタイムの常勤を含む)が困難な状況が続いており、継続的な取り組みが必要である。

○専門的な知識・実践を持つ外部講師による職員研修会(学生理解)を継続実施することにより、年々学びが深まってきた。それに基づいた個々の学生への理解及び関わり方等について学科における研修を更に充実させることが必要である。

○専任教員個々の能力を伸ばす研修機会の確保(経済的援助等)が求められる。

・評価によって表出した課題と改善策

◎全職員を対象とした外部講師による「学生理解」のための研修を3年連続で行うことができ、年々教職員の共通理解が深まってきた。次年度以降も継続して実施していきたい。また、研究紀要の発刊による本校取組の積極的な発信についても継続していきたい。

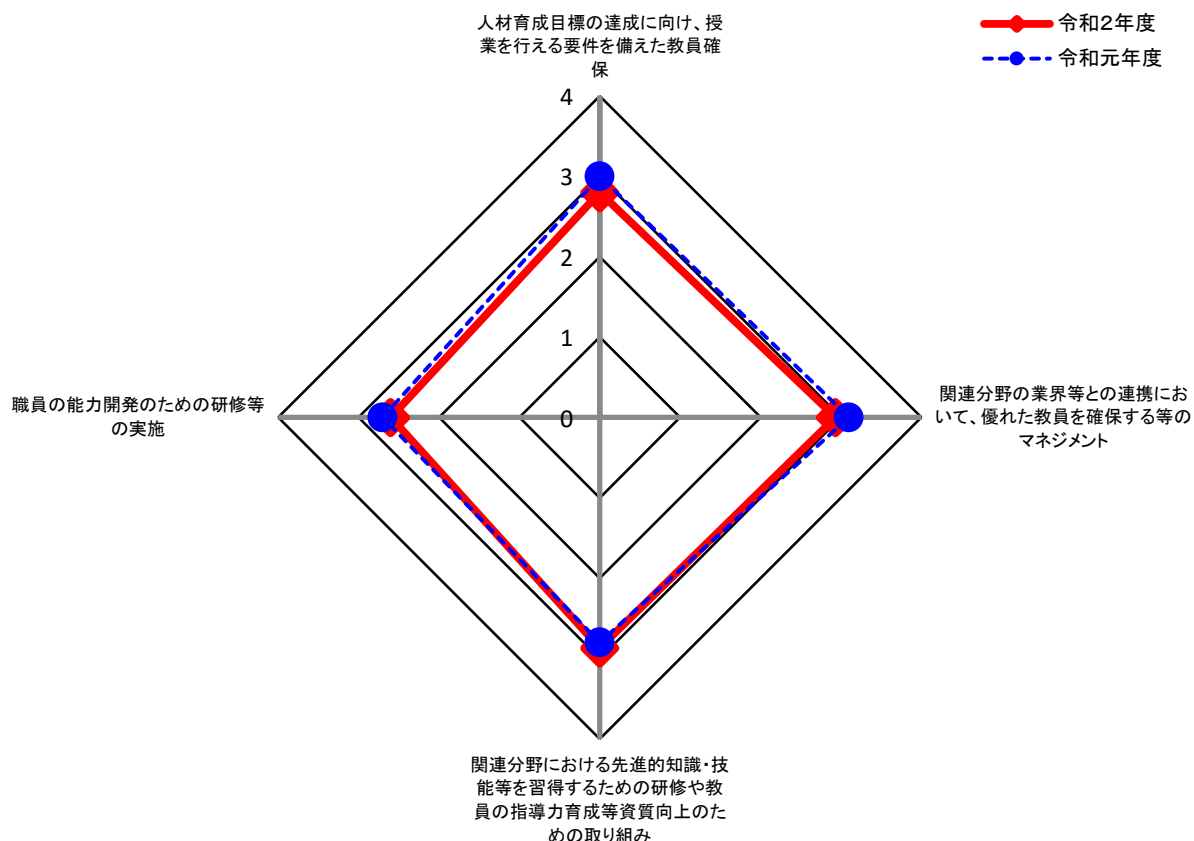
◎教授陣の個別活動が見えない場合もあり、教員相互の学科をこえた更なる交流も必要。

◎専任教員を公募しているが、適任者の応募がない。待遇の見直し、研究援助など、働きたいと思える職場環境をつくっていく必要がある。

◎フルタイム教員が少ない状況ではTA制度を維持する事が難しい状況であり、様々な悩みを抱える学生に対応しきれない。教員の指導力育成や研修に力を入れていかなければならない。

◎自身の資質向上を意識して、研修への参加の機会を持つよう心掛けていきたい。

◎常勤の教員の負担が大きくなっている様に思います。



4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	2	0	0	3.3	3.5
資格習得率の向上	職	3	2	1	0	3.3	3.3
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	3	0	0	3.0	3.1
退学率の低減	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	2.7
卒業生・在校生の社会的 活躍・評価の把握	職	2	4	0	0	3.3	3.0
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	2.8
卒業後のキャリア形成へ の効果を把握し、教育活 動の改善に活用している	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	2	1	0	2.7	2.7

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、各項目とも前年度を下回ったものはない。

○退学率に増加傾向は見られなかったが、今後も日常的な面談や相談活動を通してきめ細やかな対応(組織としての学生への関わり、保護者との連携等)を進めていくことが大切である。

○今年度、学生の卒業後の状況把握に取り組んだが、その中で得た学生からの情報等を在校生の指導に生かしていきたい。

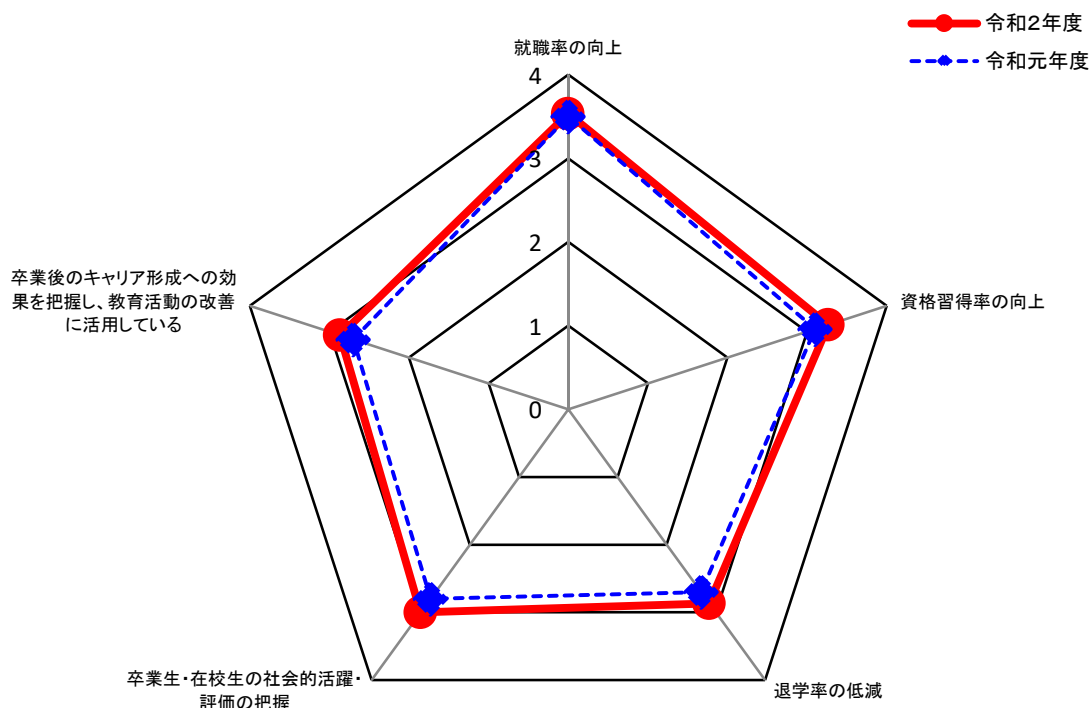
・評価によって表出した課題と改善策

◎本校には、様々な課題を持つ学生の割合が多く、それが退学や欠席など多くの問題につながっていると思われる。学生へのきめ細かで丁寧な関わりを全教職員が共通理解に立ち進めなければならない。

◎多様な学生に対応する専任教員の数が少ないが、一度本校の門をたたいた学生のかかわりは是が非でも卒業させる命題があると思う。

◎卒業生の把握ができていない。(同窓会等の活用など)

◎欠席、遅刻する学生への対応について、教員の意識統一が必要かと思います。



5 学生支援

(1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	3	2	1	0	3.3	3.3
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	1	1	0	3.0	3.1
学生相談に関する体制の整備	職	1	5	0	0	3.2	3.1
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	1	1	0	3.0	2.8
学生に対する経済的支援体制の整備	職	2	3	1	0	3.2	3.2
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	2.9
学生の健康管理を担う組織体制	職	2	4	0	0	3.3	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	1	1	1	0	3.0	2.7
課外活動に対する支援体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	3.1
学生の生活環境への支援	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	2.7

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント上がっており、各項目とも前年度を下回ったものはない。(過去3年間の中でもっとも良い評価だった)

○多様なニーズ、悩みをつ学生が気軽に学業や学校生活など多方面にわたる相談を気軽にできる温かな雰囲気作りを大切にしたい。

○小規模校であることを生かし、学生への声かけ、相談、支援等をきめ細かく丁寧に進めていく体制づくりを進めていきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎フルタイム勤務の専任講師が少ないことから、TA制度を進めるには困難さを伴うことは現実問題としてはあるが、様々な課題を持つ本校の学生に対する支援は必要不可欠であるので、それをどうしたら進めていけるのか、知恵を出し合い前向きで建設的な対応を考えていきたい。

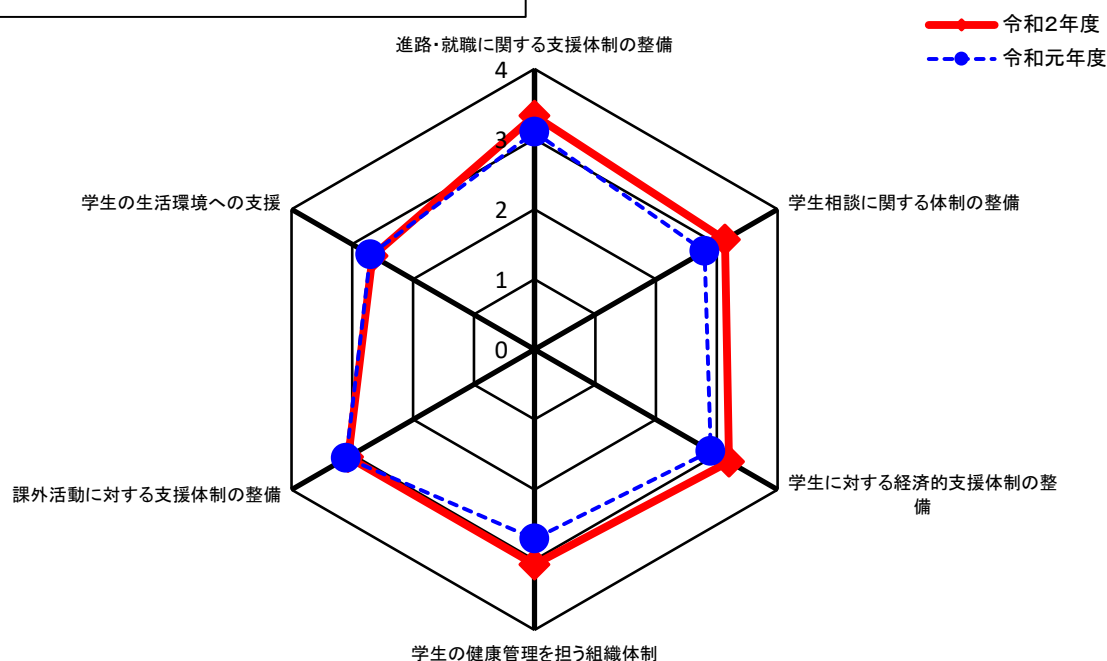
◎何とか手間をかけながら学生に対応している「教育のプロ」は、本校ならではの環境の中だからこそと考える。

◎様々な取組に対して、学科で大きく差があると感じる。

◎学生の生活環境への支援が不十分である。専門機関との連携も必要。

◎形としてはTA制度があるが、現状の教員体制では対応しきれない。一部の教員の献身的努力によって学生支援が続けられているが、それでは解決に至るのは難しい。

◎学生支援については、教育理念、方針にもとづいて、学生ひとりひとりに対してという視点で、方向性を再確認を都度していける体制を整備していけたらどうかと考えます。



(2)連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	2	2	2	0	3.0	3.1
	こ	2	2	2	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	2.9
卒業生への支援体制	職	2	4	0	0	3.3	3.0
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	1	2	0	0	3.3	2.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	2	4	0	0	3.3	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	2.9
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	4	0	2	0	3.3	3.4
	こ	3	2	1	0	3.3	
	介	2	1	0	0	3.7	3.3

網掛けは前年度平均

○すべての項目で前年度を上回り、総平均値は0.2ポイント上がっている。(過去3年間の中でもっとも良い評価だった)

○今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ観点から実施できなかったが、高卒学生の保護者に対する年に一度の個別面談の実施など、保護者との連携を深めていく取り組みに是非取り組みたい。(学科別保護者懇談会の開催については、必要があれば開催)

○今年度、令和元年度卒業生の現在の就職先の確認を行った。数年間は継続し、そこから得られるものを活用していくことが大事である。

・評価によって表出した課題と改善策

◎高卒生は18～20歳と大人への歩みを進めている段階ではあるが、本校の現状を考えると、保護者との連携は必要不可欠である。特に課題を持つ学生については、早い段階から保護者への情報提供を行い、必要に応じて面談を持つなど、個別に連携をとる必要を感じる。

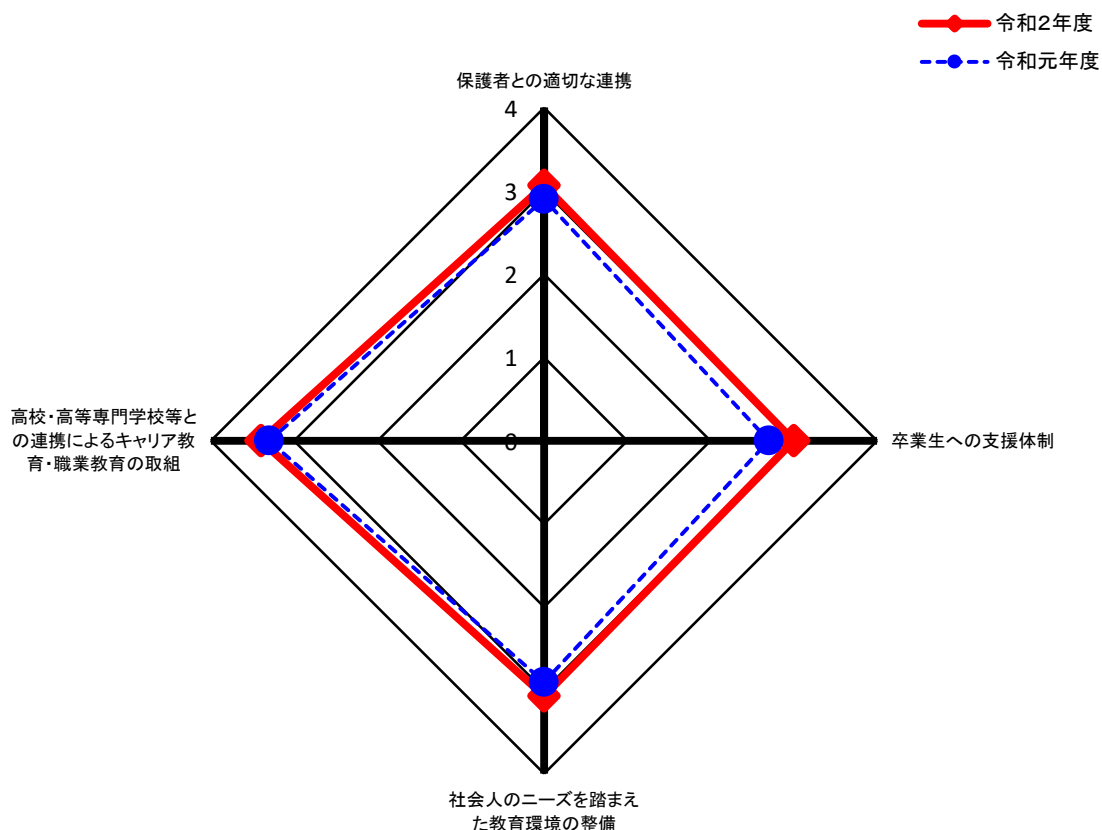
◎保護者との連携は現役学生、卒業生とのつながりの有機的維持のためにも必要である。

◎学科で大きく差があると感じる。

◎新しい図書や、ピアノの台数など、教育環境が整備が不十分である。優先順位をつけての購入や釧路市への要望。

◎卒業生への支援については同窓会を活用。

◎現行の教員体制では難しくなっている。また保護者となかなか連絡が取れない状況も増えている。



6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている	職	0	4	2	0	2.7	2.2
	こ	0	0	3	3	1.5	
	介	1	0	2	0	2.7	2.3
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している	職	1	3	2	0	2.8	2.8
	こ	1	1	4	0	2.5	
	介	1	2	0	0	3.3	2.9
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	職	0	2	4	0	2.3	2.4
	こ	0	3	2	1	2.3	
	介	1	0	2	0	2.7	2.2
防災に対する体制の整備	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	こ	0	2	3	1	2.2	
	介	1	2	0	0	3.3	2.5

網掛けは前年度平均

○総平均値は若干上がったものの、2項目で前年度を下回っている。(総平均値は2.5点で、最も低い値となっている)

○施設・設備の老朽化に伴う、短期、中長期的な計画的改修、改善の必要性が大きな課題として継続している。

○専任教員の人数や勤務形態の関係から、災害時の避難誘導・安全確認等(避難訓練を含め)について、どのように進めていくのが現実的なのかを考えていかなければならない。

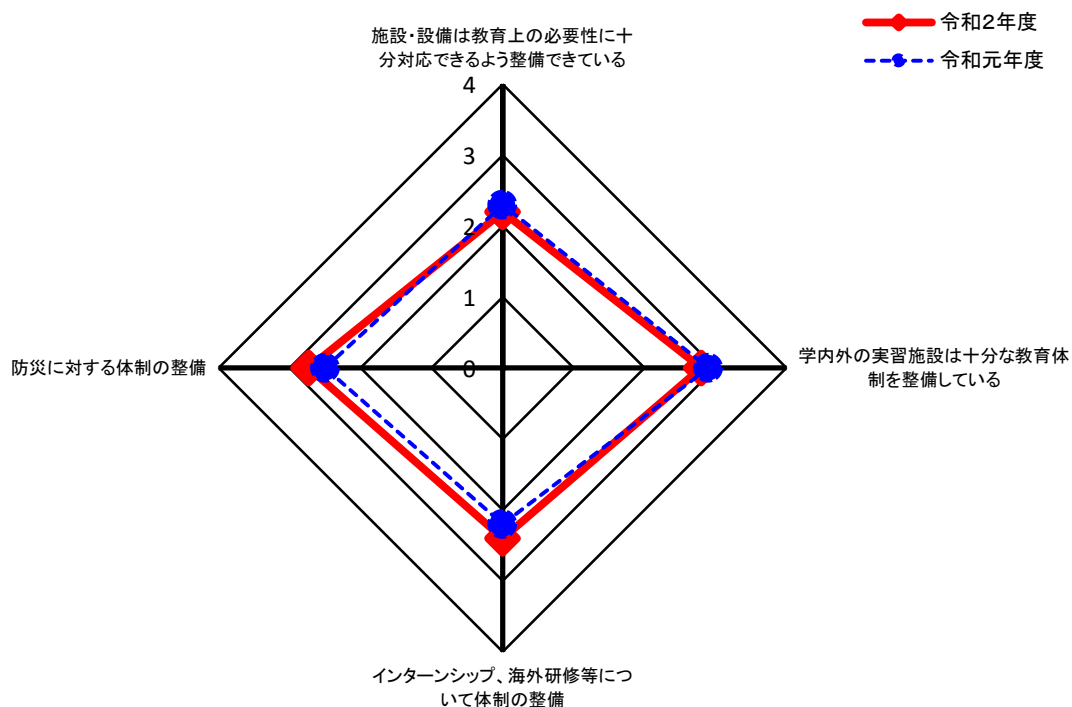
・評価によって表出した課題と改善策

◎老朽化した校舎及び校内の施設・設備の修繕・整備が喫緊の課題となつてはいるが、「古いけれど清掃が行き届き、整理整頓がなされている学校」「校舎を大切にする学生」に取り組むことはできるので、学生・教職員が心を一つに素敵な学校づくりに取り組んでいきたい。

◎校舎の老朽化は否めないが、行き届いた清掃、運用で補っていくしかないと思う。

◎施設実習を引き受けてくださる施設がコロナ禍で限定した。(実習施設の開拓)

◎特に火災等の非常時においては、教員が少ない時間帯もあり、様々なケースへの対応・対策が必要と思われる。



7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動は適正に行われている	職	5	1	0	0	3.8	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	2	1	0	0	3.7	3.3
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.1
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.1
学納金が妥当なものになっている	職	5	1	0	0	3.8	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	2	1	0	0	3.7	3.3

網掛けは前年度平均

○すべての項目で前年度を上回り、総平均値は0.2ポイント上がっている。(過去3年間の中でもっとも良い評価だった)

○様々な場や機会を通じて学校の教育活動や魅力発信を積極的に進めており、継続的に取り組んでいきたい。

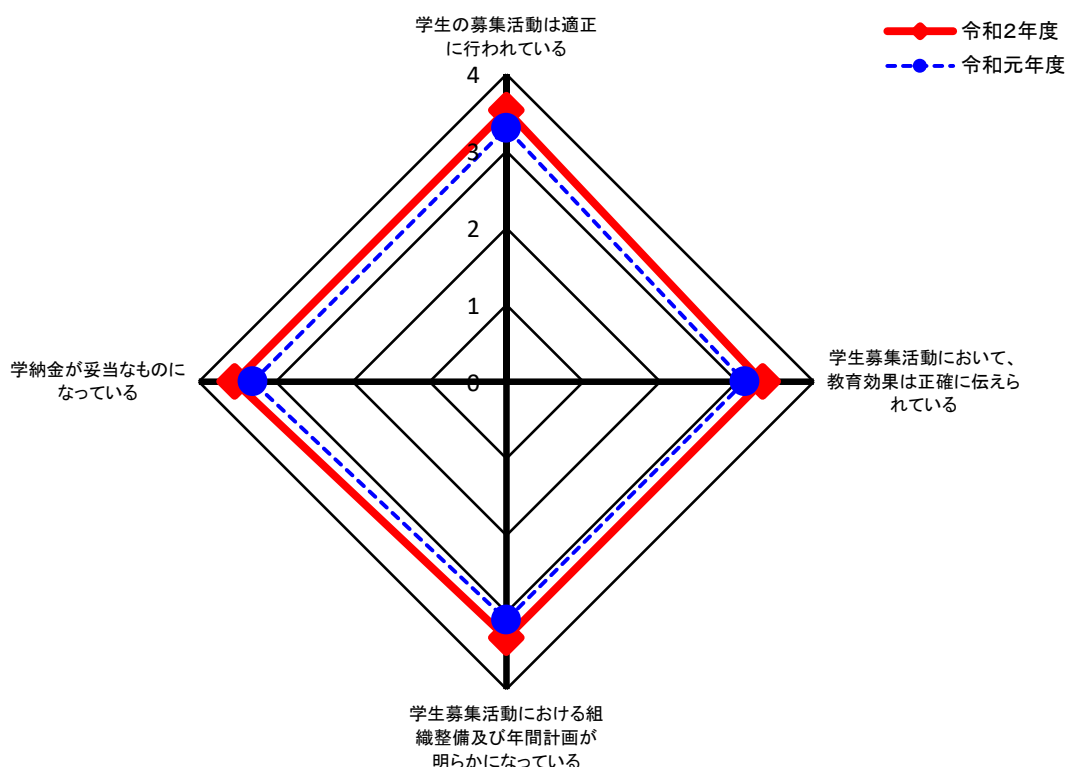
○広報部を中心に、学生募集(入学生増)に全教職員で取り組んでいきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎コロナ禍の中ではあったが、ホームページ充実(教育活動・学生の頑張りの紹介)、高校訪問への取り組みなど、広報担当者の努力は高く評価できる。今後の高卒生激減の中、学校生き残りのため、広報担当者だけに任すのではなく、教職員一人一人が改善策や自分にできることを考え、取り組んでいく必要がある。

◎このご時世、学生募集は苦労の連続である。一人でも多くの若者に顔を向けさせるため、外に開かれた行事、外に発信できる校内行事を積み重ねなければならない。

◎コロナの影響もあり、オープンキャンパスへの参加を迷う学生もいると思うので、ズームを使ったオープンキャンパスや出前授業等に今後力を入れていく必要があると思います。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	こ	0	1	5	0	2.2	
	介	0	3	0	0	3.0	2.4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	2.6
財政について会計監査が適正に行われている	職	4	1	1	0	3.5	3.1
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	3.1
財務情報公開の整備はできている	職	3	2	1	0	3.3	3.0
	こ	1	2	3	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	3.0

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、各項目とも前年度を下回ったものはない。

○財務に関する情報はホームページで公開されているが、教職員がそのデータの見方等について理解できる取組が必要である。

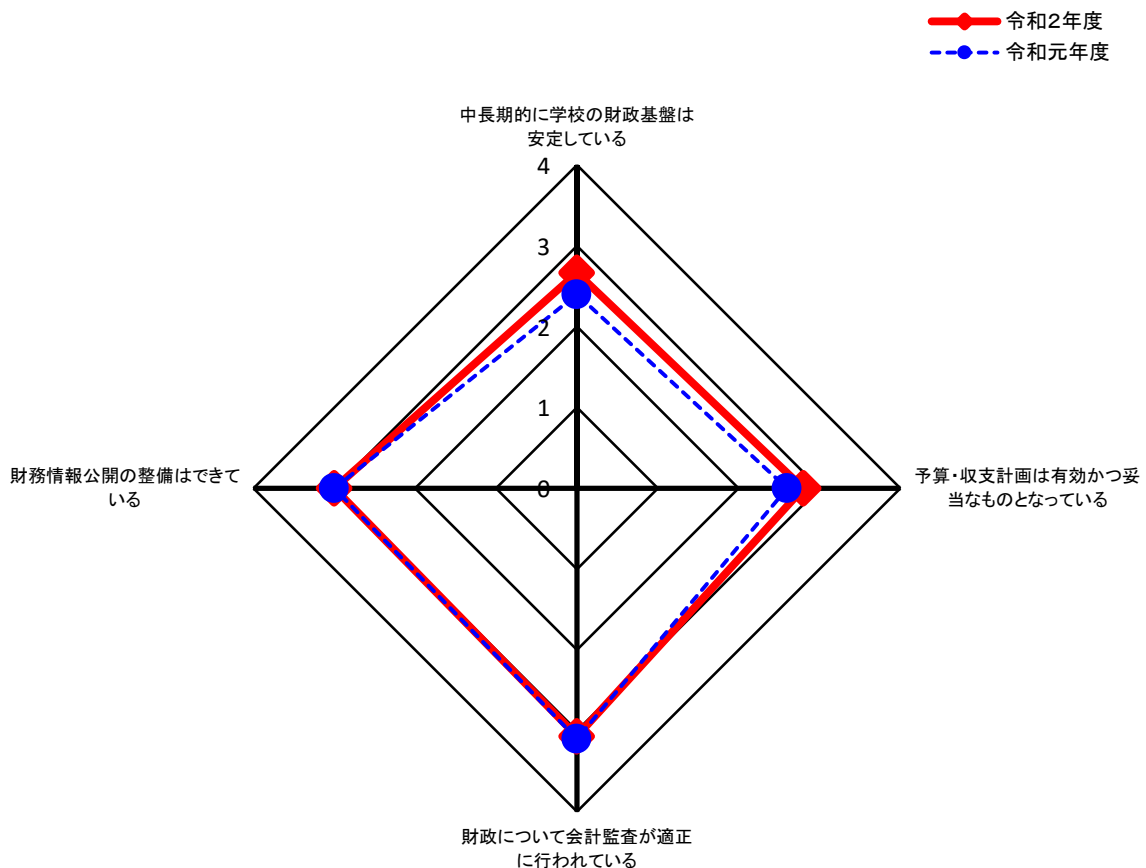
○財政基盤の安定に最も関わっている学生増に向けて、全学あげての取り組みの推進していく必要がある。

・評価によって表出した課題と改善策

◎学生数が増えることが財政基盤の安定につながることから、前項「7 学生の受け入れ募集」に記載されて取り組みを充実していきたい。

◎現状を維持するしかない。

◎法人全体としてではなく、学校単位での予算・収支計画の理解(説明)が必要。



9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	3	0	0	0	4.0	3.3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	職	4	1	1	0	3.5	3.3
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	2	1	0	0	3.7	3.1
自己評価の実施と問題点の改善を行っている	職	1	5	0	0	3.2	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	3.1
自己評価結果の公開	職	1	5	0	0	3.2	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	3	0	0	0	4.0	3.4

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がったが、1つの項目が前年度を下回った。

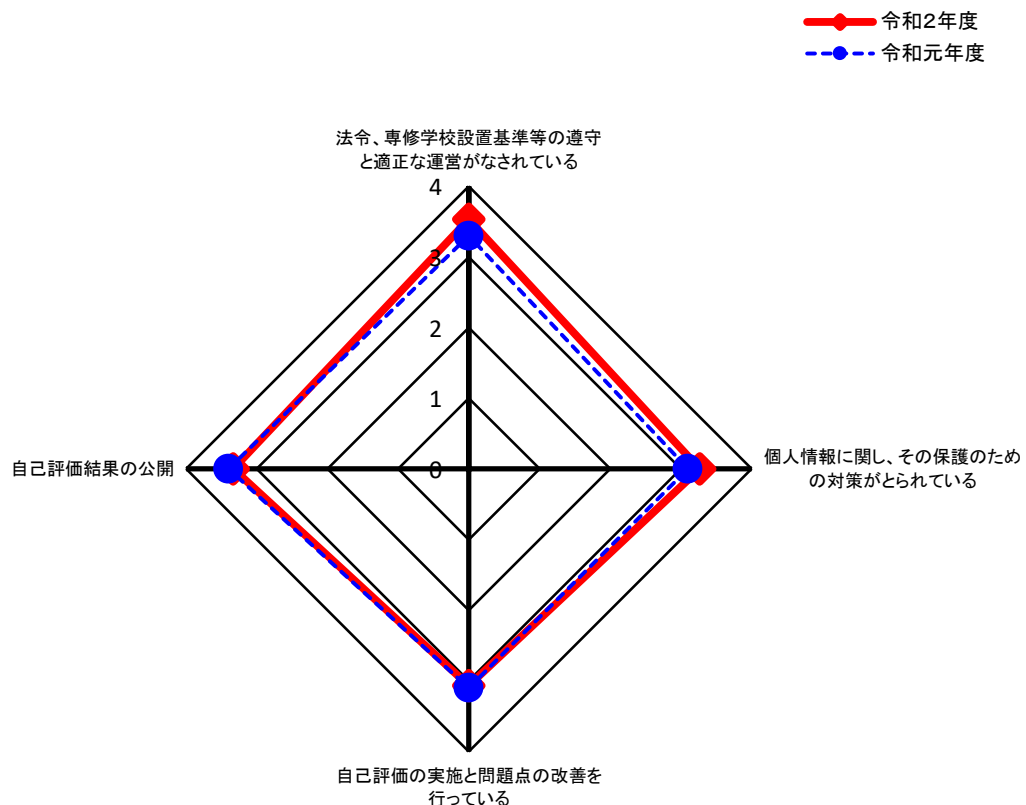
○今年度は、昨年度の自己評価・学校関係者評価の結果を受け、11点の改善事項を定め取組に着手したのもあったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から不十分に終わった事項も少なくない。次年度は、校内研修を定期的に設け、積極的な意見交流を通して改善に向け前進していきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎小規模校ながらほぼ適切に実施されている。

◎個人PCで個人情報を扱っている状況がある。(ウイルス対策ソフトを法人として購入し、インストールするなどの対応も必要)

◎自己評価については実施しているが、問題点の改善については個々にあずけられている。協議や説明の機会が欲しい。職員・こども・介護の評価の違いから見えてくるものもあるのでは？



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	職	6	0	0	0	4.0	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.4
学生ボランティア活動を奨励、支援している	職	5	1	0	0	3.8	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	3.4
地域に対する公開講座等を積極的に実施している	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	2.9
教育訓練の受託等を積極的に実施している	職	5	0	1	0	3.7	3.5
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	2	1	0	0	3.7	3.6

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント上がったが、1つの項目が前年度を下回った。

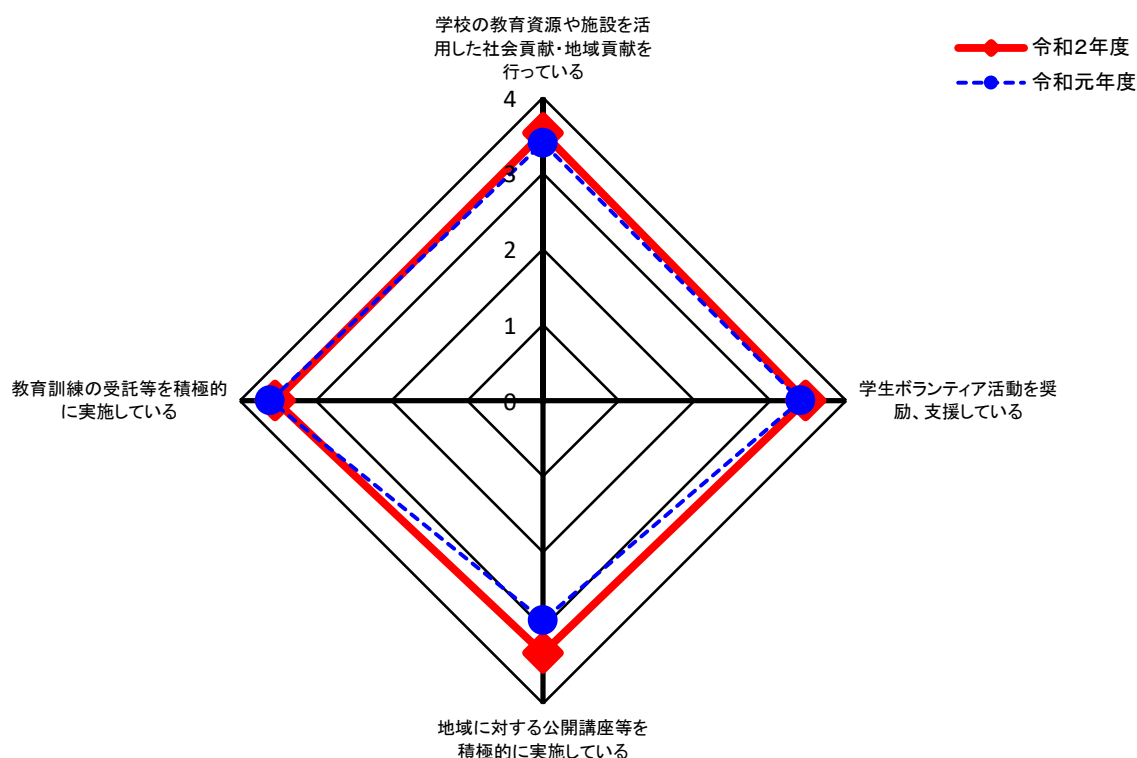
○本校で重視している取り組みの一つであり、総平均値は3.5と、例年同様大項目の中で最も高い評価となつてはいる。

○釧路の自然再発見は、コロナ禍の中で開催回数減となったが、一定の成果をあげることができた。また、学生会の活動も新たな取組を進め、地域貢献等に継続的に取り組むことができた。今後も継続・努力していきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎社会貢献・地域貢献については、学校として意識的に取り組んでいるところである。コロナ禍の中にあつて、どのような取組ができるか、次年度も検討を重ねていきたい。

◎自然再発見シリーズでの年間動員数は500人を超え(R2年度)、別の意味でしろせんもん学校の存在を市の内外にひろめている。願わくば、これらが学生確保の一助になればと考えている。



・その他の課題(全体的に)

- ◎本校の存在意義(釧根にただ一校)を事あるごとに訴える。(行政や企業や市民に対して)
- ◎学内組織をこれまでの委員会制で行ってもティール運営はできると思います。

・考えられる改善策

- ◎①学生確保のための諸方策、②財政的(公的補助)

※自己評価結果について

○学校自己評価も回を重ね6回目の実施となりました。昨年度は大項目13のうち12が前年度の平均値を下回り、そのうち9の大項目が前年度比0.2ポイント以上減、また0.3ポイント以上の減は3という結果でした。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から、従来の活動や取組が制限される中でしたが、1項目を除き、12の項目が前年度の平均値を上回りました。

○昨年度の自己評価及び学校関係者評価の中で浮かび上がった課題は11ありました。

①ティール運営の理解(職員間の共通理解)、②成績評価基準、進級・卒業認定基準の明確化、③授業評価の継続(非常勤講師についても)、④全職員(非常勤講師も含む)対象の研修継続、⑤現場で働いている卒業生の声を学生に伝える、学生と卒業生の結びつき、⑥卒業生への支援・連携(卒業後の状況把握)、⑦開校(創立)50周年を契機にした学校のアピール、⑧同窓生の組織化(同窓会開催)、⑨地域との結びつき(地域に学校が見えない)、⑩職員のコミュニケーション(同じ認識で学生に関わる)、⑪保護者との連携(個別面談の実施)です。

取り組むことができたもの、コロナ禍の中で対応が難しかったもの、取り組みをほぼ持ち越すことになったものなど、11の課題によりさまざまですが、各評価の数値や意見について(今後実施する学校関係者評価の結果もあわせて)教職員全員が真摯に受け止め、次年度はその改善策や方策について考え、実践していくことができればと思います。

特に、来年度は1～2か月に一度は校内研修を設け、テーマにもとづいて語り合える場を大切にしていければと思います。